



暑い日が続くようになり、熱中症が心配な時期となりました。体が暑さに慣れていない梅雨明けや急激に気温が上がった日は特に注意が必要です。普段からの外遊びで体を鍛え、喉がかわいていなくても水分をこまめに摂取するようにしましょう。



溶連菌 感染症

溶連菌(ようれんきん)感染症とは、溶血性連鎖球菌という細菌による感染症で、喉の痛みを伴う咽頭炎の2割程度がこの菌が原因と言われています。5~10歳くらいまでの子どもがかかりやすく、発熱で気付かれることが多く、咳やくしゃみなどでうつります。



2~5日の潜伏期間の後、喉の痛みや、扁桃腺が腫れる症状から始まり、頭痛、体のだるさなど、かぜの症状と同時に38~39℃の高熱が出ます。発熱から2~3日経つと、首や胸、手首、足首に粟粒状の発疹が現れて強いかゆみを伴い、やがて全身に広がります。同時に、舌にイチゴ状の小さくて赤いブツブツとした発疹が現れます。

溶連菌感染症と診断されたら、抗生物質を10日から2週間程服用します。早い時期から服用する程、治療効果があると言われていいます。発症から5日程経つと、熱も下がり、発疹や喉の痛みも治まります。予防には、手洗い・うがいが基本です。

熱がある時は、水分補給を十分に行いましょう。また、喉の痛みがあるため、熱い物や刺激物、柑橘系の果物は避けましょう。回復後、まれに急性腎炎やリウマチ熱にかかることがあります。症状が消えても、医師の指示があるまでは、薬の服用をやめないようにしましょう。



6月は、1日発熱して、翌日には解熱するというパターンが多くみられました。解熱すると、もう大丈夫かなあと思いがちですが、病院受診しておくとう安心ですね。

<6月の感染症状況>

- ひかり・・・突発性発疹 2名
- 手足口病 2名
- にじ・・・突発性発疹 1名
- そよかぜ・・・RSウイルス 1名
- 夏風邪 2名
- アップル・・・溶連菌感染症 1名
- チェリー・・・溶連菌感染症 1名
- 感染性胃腸炎 2名
- オレンジ・・・新型コロナウイルス 1名
- 溶連菌感染症 1名

※その他、原因不明の発熱や風邪症状のお友だち 20名前後

「熱中症を予防しましょう！」

強い日差しの中で心配になるのが熱中症です。外で強い日差しにさらされて起こるのが日射病、蒸し暑い所に長時間いて起こるのが熱射病。総称して熱中症といいます。

予防のポイントは・・・

- ★炎天下で遊ばない：日差しが強いのは、午前10時頃~午後2時頃です。
- ★外と家との温度差に注意：急な温度差は、体力が奪われて危険です。
- ★つばの広い帽子をかぶる：頭だけでなく、後頭部や首も日光から守りましょう。
- ★ベビーカーは短時間で：ベビーカーはアスファルトの照り返して熱がこもります。
- ★子どもを一人にしない：クーラーをつけていても、子どもを車や部屋に一人で残すのは危険です。
- ★こまめな水分補給：少量の水分を30分を目安に、こまめに飲ませます。